



さわやか

健康
誠実
敬愛

令和5年4月7日

西東京市立田無第二中学校 4月号

節目を大切に

校長 矢野 尊久

「人生は竹の節目のごとく生きろ」と言います。これは、木のようにいくつもの枝に分かれることなくまっすぐに伸びていきたいと願うことからきていていると言われています。昔は15歳になると元服を向かえ、大人の仲間入りをしていた時代がありました。この当時の子供が親に尋ねるそうです。「自分の人生の中でどんな時が竹の節目ですか。」すると、親はこう答えます。「それは今までの人生の中で経験したいくつかの出来事と比較することによって得られる。たとえば昨日と今日は違う。15歳という年齢は子供から大人になる時。これがひとつの節目だ。」さらに子供は親に聞きます。「15歳を超えるとずっと大人でいるわけです。そこからは何を基準に比較するのですか。」親は続けて答えます。「仕事を例に例えよう。仕事が5年と順調に続かない人がいたとする。続かない原因は自分の焦りだと気づき、今度はその二の前をしないようにしようと思った。その時が節目だ。その節目を境に比較するのだ。今度は期間を5年と置き、がんばろうと。これが自分自身の節目になる。」

節目というのは勝手にできるものではないのです。こうありたいと考え、取り組み始めた時に節目はできはじめるのです。新年度や新学期は全てが新しくなります。まさに節目にすることのできる時期です。節目があるほど竹の根は太く、そして逞しくしっかりと大地に根を張っています。節目がある竹は風雪に耐えるだけのしなやかさがあります。竹にも節目があるように新しい年度の初めが生徒たちの節目になるように、これから新しい学級で先生と友達と一緒にどんな年にしたいか、何を目指したいかしっかり考えられることを願っています。

令和5年度学校経営案（抜粋） ※全文はホームページに掲載いたします。

生徒が生き生きと学ぶ学校

- ・思いやりと礼儀があり、優しさ、あったかさのある学校
- ・一人ひとりを大切にし、誰一人取り残さない学校 ※不登校生徒対応
- ・生徒の資質・能力を伸ばせる生徒主体の学校
- ・教職員が目標をもって経営参画し、生きがいを感じる学校
- ・保護者や地域が信頼し協力する学校

自分も他人も大切に作る生徒、その上で主体的に自身の力の向上を目指す生徒

- ・受け身ではなく主体的な学びの姿勢をもつ生徒
- ・相互に人権を尊重し、支え合う生徒、人に優しい生徒
- ・社会性を大切にし、周囲と場に応じたコミュニケーションができる生徒
- ・自ら考え判断、表現し、メタ認知ができる生徒
- ・目標をもち、自分の資質・能力を高める生徒
- ・取り組むことで達成感を感じられる、自己肯定感のもてる生徒

主体的に経営に参画する教師

- ・一人ひとりの生徒をあたたく大切に育む教師、深い愛情をもって生徒の良き「聴き手」となり、支援する教師 ※二者面談、西東京市あったか先生、特別支援教育推進、※不登校生徒対応
- ・高い専門性をもち、創意工夫に満ちた分かりやすい生徒主体の授業に努める教師
- ・ファシリテーション能力とICT活用能力の向上に努める教師
- ・教育活動全体（授業、行事、諸活動、地域との関係等）において目標を設定して組織的に行動できる教師